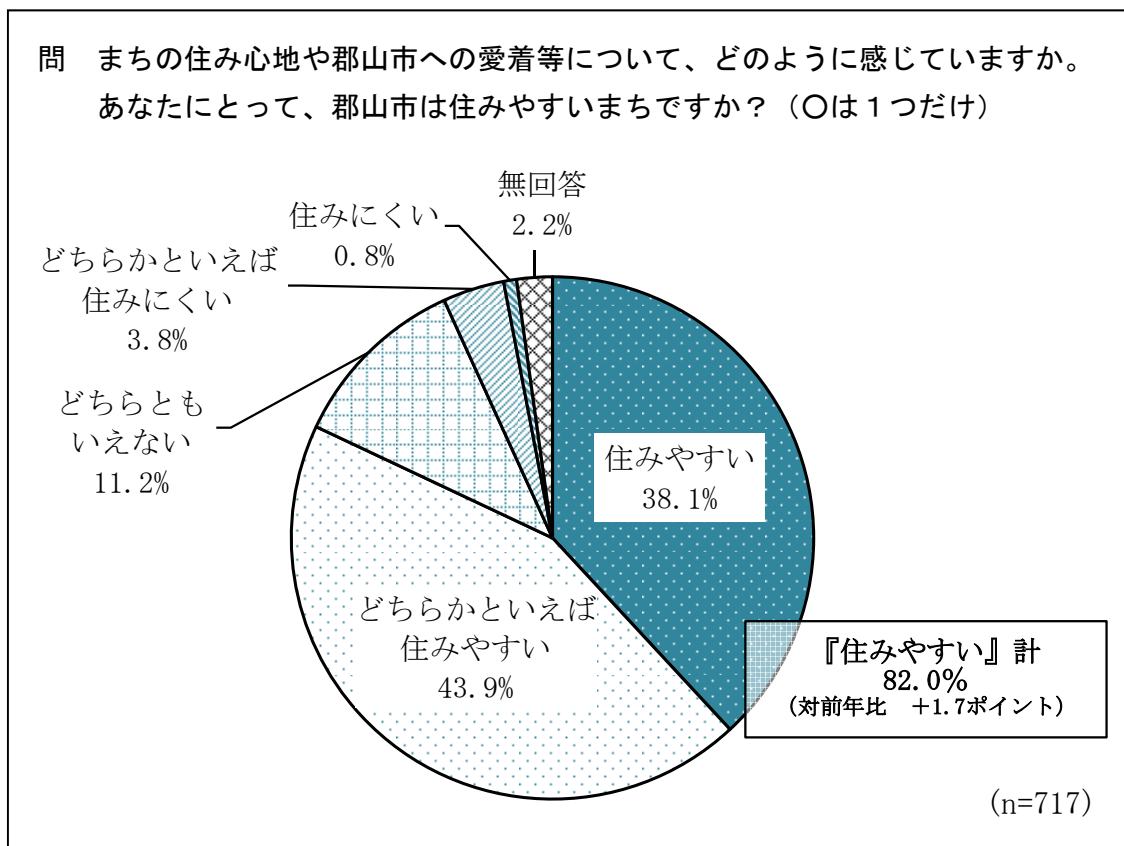


1. 郡山市の住みやすさなどについて

(1) 住みやすさへの評価



8割の市民は郡山市を住みやすいまちと認識

【全体結果】

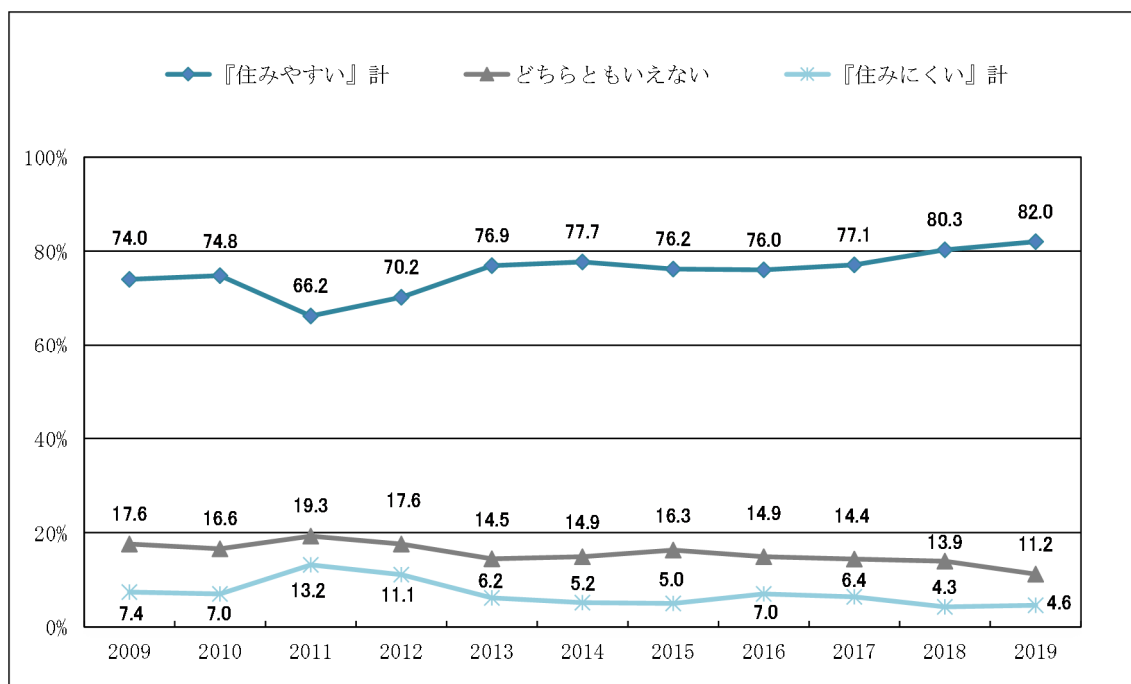
郡山市が住みやすいまちであるかどうかについては「住みやすい」(38.1%)、「どちらかといえば住みやすい」(43.9%)で両者を合計した『住みやすい』計(82.0%)が約8割を占めています。

一方、「どちらかといえば住みにくい」(3.8%)と「住みにくい」(0.8%)を合計した『住みにくい』計は5%程度(4.6%)となっています。

前年度調査に比べて、『住みやすい』計のポイントは1.7ポイント上昇しています。また、過去の調査結果との比較では、東日本大震災直後『住みやすい』計は低下したものの、その後復興が進み2013年からは震災前を上回り、今回最も高くなっています。

(図1-1参照)

図 1-1 住みやすさの評価（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 1-2 参照）

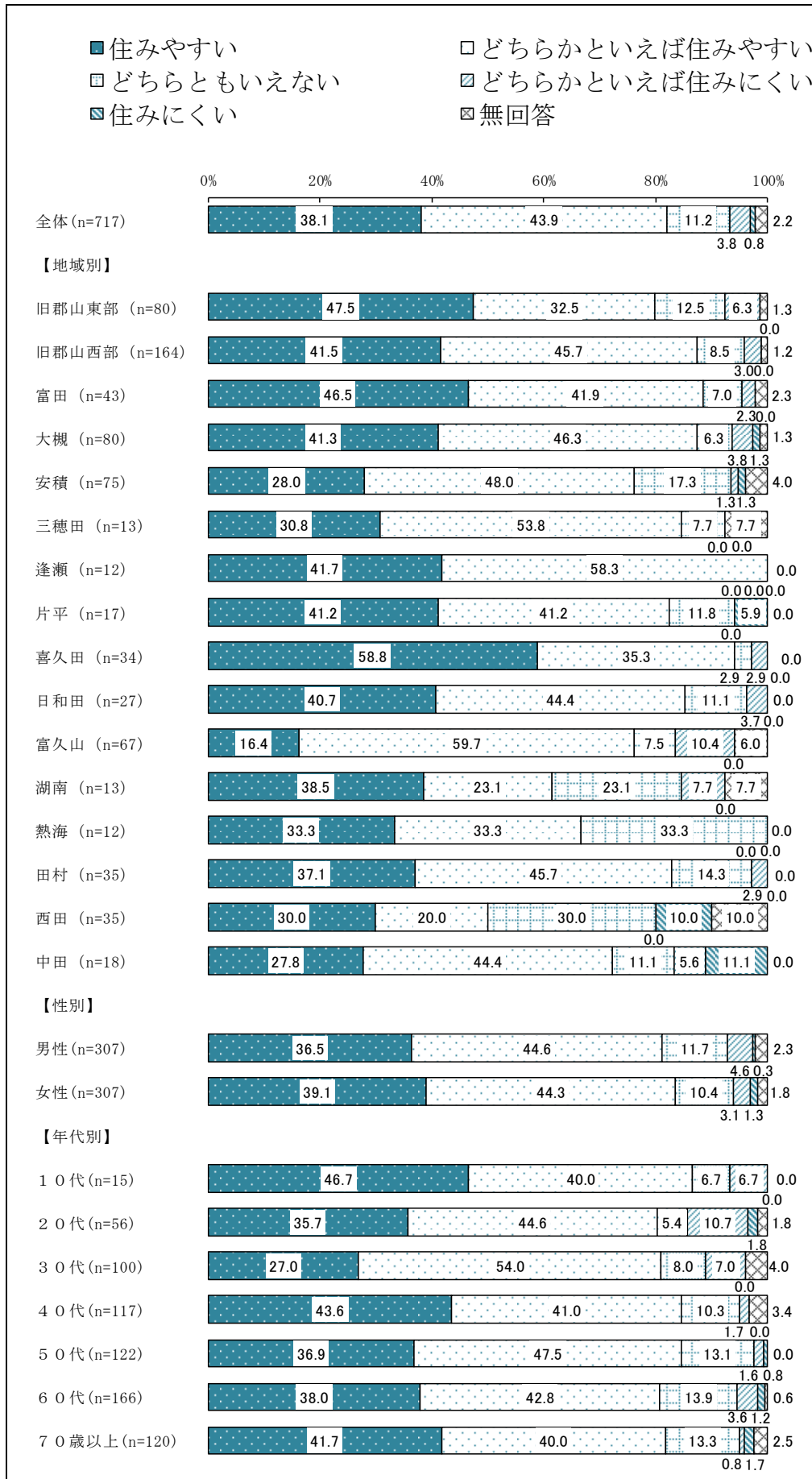
①性別

『住みやすい』計の割合は、女性（83.4%）の方が男性（81.1%）よりもやや高くなっています。

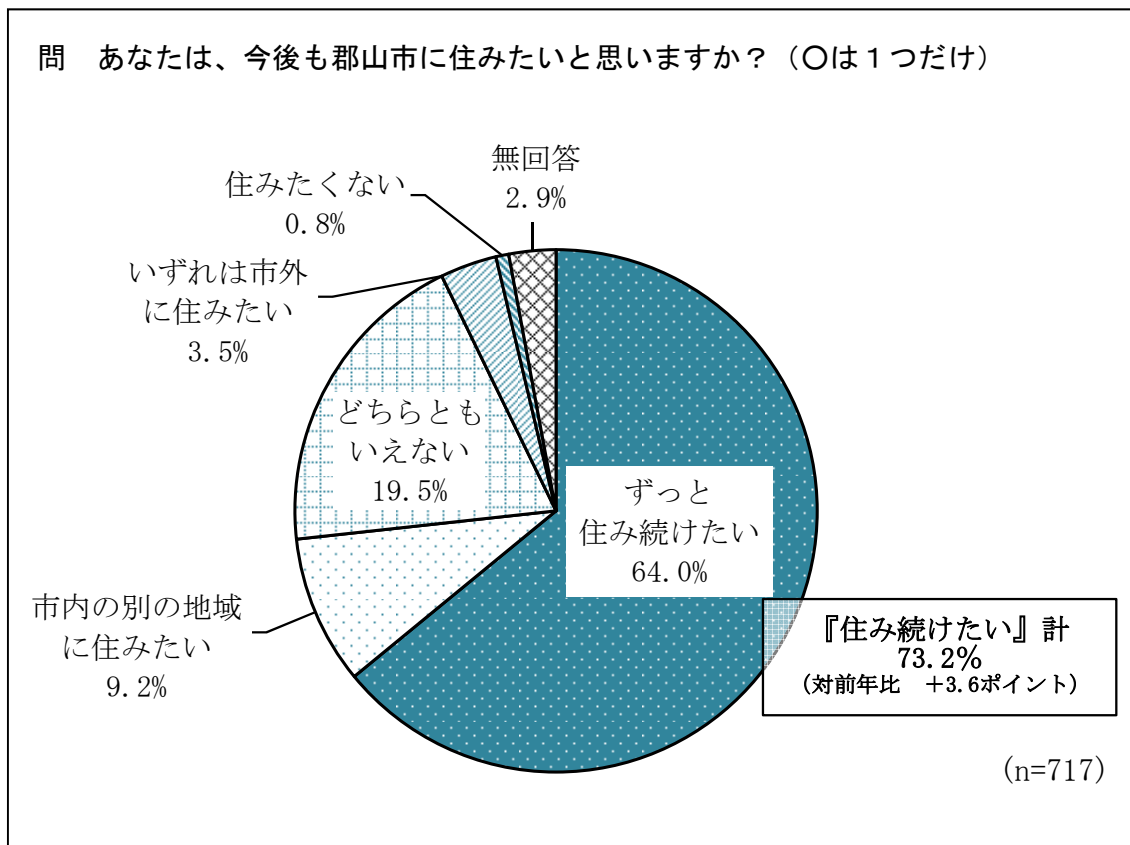
②年代別

『住みやすい』計の割合は、すべての年代で8割を超えています。
 なお、10代については回答数がかなり少ないため、参考として数値のみ掲載いたします。（以降同様）

図 1-2 住みやすさの評価（地域別／性別／年代別）



(2) 今後の居住意向



7割の市民は今後も郡山市内に住みたいとしている

【全体結果】

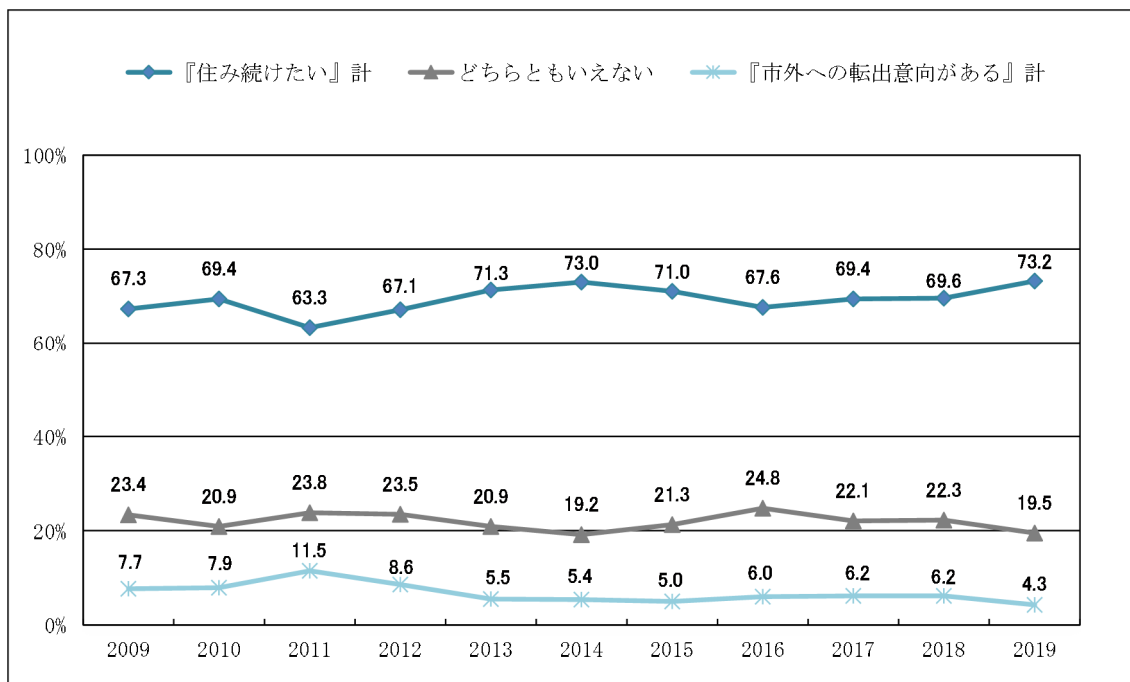
今後も郡山市に住みたいかどうかについては「現在の住所にずっと住みたい」（64.0%）、「市内の別の地域に住みたい」（9.2%）で両者を合計した『住みたい』計（73.2%）が約7割を占めています。

前項の『住みやすい』計と比較すると1割程度低く、「どちらともいえない」の割合が『住みやすい』計よりも1割程度増えています。

一方、「いずれは市外に住みたい」（3.5%）と「住みたくない」（0.8%）を合計した『市外への転出意向がある』計は5%程度（4.3%）となっています。

なお、過去の調査結果との推移で比較すると、前項の〈住みやすさへの評価〉と同様、東日本大震災直後『住みたい』計は低下したものの、2013年以降、概ね7割前後で推移しています。また、『市外への転出意向』計は2011年をピークに減少し、2013年以降、6%前後で推移しています。2019年においては、調査開始以来、最も低くなっています。（図1-3参照）

図 1-3 今後の居留意向（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 1-4 参照）

①性別

『住み続けたい』計の割合は、男性（76.9%）の方が女性（70.3%）よりも高くなっています。

②年代別

『住み続けたい』計の割合は、70歳以上（86.6%）で最も高く、次に60代（78.3%）と高い年代で割合が高くなっています。

一方、20代は「どちらともいえない」の割合が高く（30.4%）、『住み続けたい』計（55.4%）は低くなっています。次に、30代（65.0%）が低く、これら年代では「いずれは市外に住みたい」「住みたくない」の割合が他の世代に比較して多くなっています。

図 1-4 今後の居住意向（地域別／性別／年代別）

